

さむ いま そと あそ
寒くなる今だから、もっと外で遊ぼうよ！

い い いちねんせい かい
とは言っても、まだ一年生で小さいし。
はじ もり
初めてのこどもの森、よくわからなくてドキドキ。

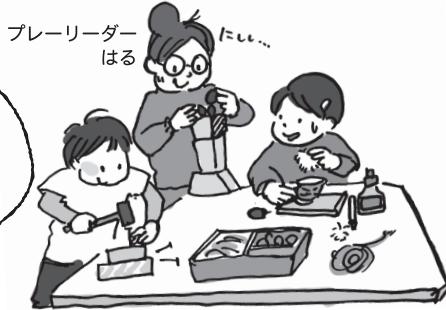


こ よご
どんな子がいるの？汚れちゃう？
そと あ
外で遊んだことがあまりないから、
どうしていいかわからないよ。

だいじょうぶ
大丈夫！

もり いっしょ
こどもの森には、一緒にワクワクを探す

プレーリーダーがいるよ。



1・2年生 Day

ねんせい でい
「1・2年生 Day」には、
プレーリーダーが
ぞういん 増員されます☆
ぜひ、遊びに来てみてね。



大人のみなさんへ

こどもの森から保護者のみなさんへのお便りです



きみの「好きなこと」を見つけよう！

来園者の母が、こんな話をしてくれました。こどもの森でクラフトを好きになり、家でも工作あそびを楽しんでいる子です。

「最近まで、子どもに好きなことを発見してほしい、科学や宇宙などいろんな興味を引き出すような塾に通っていた。ある日、工作中に集中しているときに、『塾の時間だよ』と言って、子どもの手を止めさせた。その時に『あれ？これが彼の好きなことなのでは……？』と考え込んでしまい、結局塾をやめることにした。」



私はその話を聞いて、こどもの森で出会う、「好きなこと」がわからない子どもたちの姿を思い出しました。はじめてこどもの森に来て、滑り台やアスレチック遊具がないことを知ると、所在なげに「何をすればいいですか」とプレーリーダーに聞く子どもたち。結局つまらなそうなまま帰っていき、その後姿を見ることができないと、私は自分の力不足を痛感し、申し訳ない思いでいっぱいになります。

「子どもはわんぱくで奇想天外、天衣無縫にあそぶもの！」と、大人は型にはめて思ってしまいがち。だけど、小学1年生ですらすでに、大人の「これをしなさい」という指示がないと一人であそびだせなかったり、自分は何が好きで、何が得意かがよくわか

らない、という子たちは珍しくありません。それは当然といえば当然です。どこに行っても、あそび方が決められていて、「勝手」なことをしたら叱られることの方が多いし、大人はよかれと思って、あれをしたら、これをしたら、と「役に立つ体験」をせっせと促すのですから。それなのに突然、「あなたの好きなことをしていいんだよ」と言われると、逆に困ってしまうのも仕方ありません。

だから私たちプレーリーダーがそこにいて、「何が好き？」と一緒に探りたいと思っています。その子が十分に自分の手足や感情を動かしてあそぶことができたら、自然と「もっとやりたい」「次はこれがしたい」という欲求が湧き上がります。最初はおっかなびっくり、何かするたびに「○○していいですか？」と質問していた子が、やがてプレーリーダーそっちのけで意味のない(笑)ことに熱中する姿を見るたび、私はたまらなくうれしくなります。そして思うのです、こどもの森のような、何もないけど見方さえ変えれば何でもある、みどりの自然と「自由」のある場所が、子どもたちには必要なんだ。

親は「いろんな体験をしてほしい」と子どもに願うもの。実は、子どもに必要な「いろんな体験」とは、何も難しいことではなく、特に低学年のうちは、ただ外で自由にあそぶことの中に、だいたい含まれていたりします。だって子どもはあそんでいるとき、驚くほどいろんなことを経験し、挑戦し、心を動かされているんですから。

こどもの森の利用案内

- こどもの森は、時間中いつ来ていつ帰ってもOK。お金はかかりません。
- こどもの森にある道具は自由に使えます。使い終わったら片づけてね。
- おやつやお弁当を食べることもできます。ごみは持つて帰ってね。
- 汚れてもいい服や靴で来てね。着替えもあるといいよ。
- なくなったら困る大事なものは、おうちに置いてくるか身に着けて遊んでね。

